



織田さん製作のガラガラ船
(坊津歴史資料センター輝津館に展示中)

織田 聖さん (68)

[坊津ガラガラ船・唐カラ船保存会 会員]

南さつま **縁** 人 VOL.37
MINAMISATSUMA ENGINE

坊津地域に古くから伝わる車輪が付いた船形の郷土玩具「ガラガラ船(別名、唐カラ船)」。端午の節句の時期にすこやかな成長と健康を願って男子に与えられてきたものです。ガラガラ船がいつ頃から作られるようになったかなど詳しいことは不明ですが、近代ではすでに存在しており起源はさらに古く遡るとみられています。ガラガラ船は、和船または唐船を模した色付けを行い、帆・サイノコ・4つの車輪を付けるなど、共通の特徴が見られるものの、デザインなどの細部については、作り手を規制するような厳密な製作規定は定められてきたわけではありません。基本的に先人のガラガラ船を参考に製作しながら受け継がれてきたことで、作り手によって様々な工夫が施され、その個性もガラガラ船の魅力のひとつです。この伝統あるガラガラ船を後世に引き継ぐことを目的とした「坊津ガラガラ船・唐カラ船保存会」の会員であり元船員の織田さんは、約10年前の退職を機に本格的にガラガラ船の製作に着手。「以前から趣

味でボトルシップ(瓶の中に入った帆船などの模型)を製作していたので割と手先は器用。ガラガラ船の製作も趣味の一つ」と話します。今では、小さなお土産品や製作依頼を受けたものも合わせて、年間約200隻製作しています。毎年5月5日の「こどもの日」に泊地区で開催されている「唐カラ船祭り」は、新型コロナウイルスの影響で昨年に引き続き今年も中止となりましたが、子どもたちの健やかな成長を願いながら、趣味でもあるガラガラ船の製作は生涯続けていきたいと笑顔を見せていました。



唐カラ船祭りの様子 (2019年5月開催時)

南さつま市に住む人、働く人、生き生きと活動している人を、南さつま市の輝く原動力(エンジン)としてご紹介します。